

## 令和6年度 平戸市総合教育会議 会議録

1. 日時：令和7年2月13日（木）  
午後3時30分から4時30分まで
2. 場所：平戸市役所 市長室
3. 出席者  
黒田市長、入口教育長、田中教育委員、三輪教育委員、山村教育委員
  - (1) 事務局  
野口総務部長、村田総務課長、梅木班長
  - (2) 教育委員会  
田中教育次長、森理事兼学校教育課長、永田教育総務課長、赤木生涯学習課長
  - (3) 企画課（関係課）  
藤山企画課長、植野班長
4. 協議事項  
地域の教育力の充実に向けた社会教育の在り方及び課題の解決について
5. 議事の概要
  - (1) 市の社会教育の現状説明 ※各課において、体制、行事等の説明
    - ・協働によるまちづくりの推進（企画課 植野班長）
    - ・社会教育（生涯学習課 赤木課長）
    - ・公民館（生涯学習課 赤木課長）
  - (2) 市の社会教育の在り方、課題と解決について協議

## 6. 議事録

### ○開会

### ○総務部長

それでは、お揃いですので、ただ今から令和6年度平戸市総合教育会議を始めたいと思います。

先ず、市長よりご挨拶をいただきたいと思います。

### ○市長あいさつ

今日は、今年度の平戸市総合教育会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

ご承知のとおり、この総合教育会議というのは、教育という使命を受けた担当部局のみならず、まちづくり全体あるいは、人づくりの部局等、市長部局と一緒にあって教育の観点から協議しようというのが趣旨でありまして、これまでも地域を取り巻く課題への協議など回を重ねてまいりました。今般、掲げ

ております私たちが意識しております課題というのは、人口減少する社会の中で、持続可能な社会を維持するにはどうすればいいのかということがテーマであります。子どもや子育て家庭を取り巻く様々な課題に向けて、学校はもちろんですが、地域がどう向き合っていくかということが重要だと考えています。そういったときに、一方で、地域内分権ということで、それぞれの特性のある平戸市の知見とか集落で受け継がれてきた伝統とか産業について、一つにまとめていくよりも、個性を尊重して自律性を持たせた方がいいんじゃないかというまちづくり運営協議会の成果の中で、今日的課題としてそれぞれの理念や事業が重複したり、そこにエネルギーがすれ違ったりしているんじゃないかということに思い至りました。平戸市では生涯学習であったり公民館活動、社会教育であったり、それとまちづくり運営協議会がどうコラボできるのか。今回そういったテーマで意見交換したいと思っていますところです。それぞれの立場から忌憚のない意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○総務部長

つづきまして、教育長にご挨拶をお願いいたします。

#### ○教育長

私たち、一つのことをずっと見続けていますと、段々と視界が狭くなってまいります。一点集中で見るよりは、他のところからも見た方が、物の形というものは良く分かるものだと思います。そういう考えで、この平戸市の総合教育会議は設置されているのではないかと思います。なかなか市長さんをはじめ、市長部局の方のお考えは広く聞く機会がありませんので、そういうご意見をいただきながら本市の教育についても広く見直しができるかと思っております。今回は皆さんのご意見をいただき、私たちも忌憚のない意見を交換しながらより良い方向に持っていけたらいいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### ○総務部長

それでは協議事項に移らせていただきます。協議事項につきましては、「地域の教育力の充実に向けた社会教育の在り方及び課題の解決について」ということを掲げて意見交換をしたいと思っております。協議事項についてはこれより市長により進行をお願いいたします。

#### ○市長

それでは、まず、資料の説明をお願いします。

## ○植野班長（企画課）

お手元の資料（別添「資料1」）をご覧ください。

まず、まちづくり運営協議会というものの活動分野の説明、目線合わせをしたいと思っております、今やっていることを図化してみました。

人口減少社会におけるまちづくり運営協議会の大切な役割は、地域活動の補完プラスアルファとしているんですが、現状、自分らしい生き方とか、健康で豊かな暮らしを追い求める個人の暮らしがあります。この個人が地縁によって活動しているということで、自治会活動が行われています。政策課題の対応というのを行政がしていて、公共交通とか防災とかですね。ここに社会教育、生涯学習があります。行政は、自治会との調整連携とか社会教育は地域個人へのアプローチをしています。

ただ、今日的な課題というのがありまして、個人で言うと、公の意識とか地域に帰属しているという意識が薄れてきているという気がします。もう一つは、今自分は困っていないという意識から、自治会とか互助に対するものに意識が向きにくいということがあります。自治会においては、人口減少により少子化・高齢化が進む中で、今までやれていたことがだんだん、できなくなりつつあるなあという実感が今沸いてきているところです。なので、単一自治会ではなかなかやるのが難しい。複数の自治会をまとめて、新しいコミュニティを作るというニーズがあります。行政の方からすると、人が減って地域が持続が難しくなってくるわけですけど、あまりにも課題が多様なものですから、行政が細やかに、必要に応じて対応するのが難しい面があるわけです。そこで協働によるまちづくりという手法を使って、まちづくり運営協議会（まち協）を作ろうと。自治会の活動を補完する組織を作ろう、新しい組織を作ろうと言って作ったのがまち協です。

まち協は、自治会活動の補完プラス自治会活動から一步踏み込んだ活動をたくさんしています。例えば、デマンドバスの運行、高齢者のサポートなど、自治会も市役所もしない公共的な分野として、たくさんやっています。今、新聞とかでたくさん出ているのがその取り組みです。要は、この取り組みが多ければ多いほど、図の斜線の範囲が広がれば広がるほど地域が豊かになるというわけで、まち協にはこの公共領域をたくさん広げましょうと喋っています。

今回は、社会教育がテーマということですので、社会教育の話をするんですが、この表のところで、まち協がやっている生涯学習的なことと、行政がやっている社会教育っていうのはどういう違いがあるのかなって自分で整理してみました。目的ですが、まち協の方は、地域特有のニーズとか、一番は住民交流の促進に重きを置いています。講座を開催するのは人材育成とか社会教育というよりもどちらかといえば地域住民同士が継続してまちづくりに関わってもらうための布石にするためのものです。

一方、社会教育は、法律から抜粋したんですが、青少年とか成人に対する組織的な教育活動であると。この辺は公金を使ってやっています。規模でいうとまち協は小学校区単位を基本にしています。社会教育はもう少し規模が大きい気がします。プログラム内容は、地域の特色を生かした内容が多いですね。地域の石像とかお地蔵様の由来を知ろう、のようなものです。社会教育は多種多様で大きなテーマを扱うものもあれば小さなものもありました。唯一、まち協の課題としてあるならば、持続可能性ということが弱いような気がします。役員さんたちが1年で変わってしまったり、事務局の人も変わって引継ぎがうまくいかずゼロに戻ることも多々あるものですから、ここがうまく引き継げるようになるともっと良い取り組みができると思っています。そこは、社会教育は市は異動はありますがノウハウは引き継がれていっているはずですので、中立性、継続性、安定性は確保できているのかなと思います。

以上、そういったことがまち協と社会教育の違いではないかなと思っています。このあたりの細かいところの話は赤木課長が資料を作っていらっしゃいますので、引き続き説明をよろしくお願いします。

#### ○赤木課長（生涯学習課）

社会教育の現状について説明いたします。資料（別添「資料2」）をご覧ください。

まず、資料下の方に載せております生涯学習のイメージをご覧ください。

生涯学習については、教育基本法で「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」との理念が示されています。

それに基づき、組織的な教育活動である「学校教育における学習」と「社会教育における学習」を進めており、家庭教育や個人による学習と併せて生涯学習の推進を図っています。

社会教育の定義として、社会教育法第2条を載せておりますが、組織的な教育活動のうち、学校教育を除く部分が社会教育であると定義されており、イメージの中の下線部、「社会教育における学習」の内の、一つ目の、国・自治体・公民館等の社会教育施設が行う講座・研修会という部分で各種事業を展開しています。

公民館につきましては、社会教育法第20条で「各種事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。」と定義されています。

その目的達成のため、

- 一 定期講座を開設すること。
- 二 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等を開催すること。

- 三 図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図ること。
- 四 体育、レクリエーション等に関する集会を開催すること。
- 五 各種の団体、機関等の連絡を図ること。
- 六 その施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること。  
が公民館の行う事業と定められています。

これに基づき、次の資料にありますとおり、生涯学習課をはじめ、6公民館におきまして、対象世代ごとに地域に密着した主催事業、各種団体との共催事業を実施しており、特に、まちづくり運営協議会とは、定例的な協議により連携できる部分は一緒に講座を行うなど、調整して事業を展開しており、社会教育の立場として、先ほどから説明いたしました「青少年、成人に対して行われる組織的な教育活動」という目的をもってあたっているところです。

課題としましては、人口減や高齢化によるリーダー的人材の不足、講座、イベントなどへの参加者の減、講座イベントのマンネリ化魅力低下、住民のニーズに応えた事業の展開の必要性、情報発信の手段検討など、解決すべき点が多々あるところが現状となっています。

## ○市長

ありがとうございました。資料も素晴らしいものを作っていただけてありがとうございました。今回私がこれをテーマにしようと思ったのは、まち協のシンポジウムが先日あって、近々、公民館大会というのもあります。生涯学習、まちづくり大会もそのうちにあって、「同じことやってない？」ということが自分の中での気づきであります。それは当然、法律や条例に基づいて、担当部局において責任をもってやっているわけだから、事業に呼ばれる私だけが「同じことやっているな」って思うだけで、参加者にとってはそれぞれ意味があることなのかもしれません。担当職員もそれぞれ予算化してやっていることにすぎないのかもしれない。ただ、予算をもってやっている行政の事業と、あまり予算がない中でやっている事業とどちらが効果があって、面白いのか？と検証する横軸の考察が足りていないんじゃないかなと考えます。その中で社会教育、生涯学習、公民館活動、とまち協と、ある意味シャッフルしたかたちであるべき姿に収斂していく方が時間や労力やお金の適正な配置につながるのかなと思ったことが今日の会議のテーマにつながりました。

となりますと、社会教育、まち協の両方の世界に身を置いている田中委員さん、どのようにお考えでしょうか。

## ○田中委員（教育委員）

現場の立場から言わせていただきますけれど、まず、生涯学習、社会教育、まちづくり運営協議会の違いを認識してからのお話になるんですが、社会教育、生涯学習というのは、自治体が主体となってやっているいわゆるプロ集団

です。まちづくり協議会は、ボランティア集団です。本当に、隣近所のおじちゃん、おばちゃんが会員です。まずそこを押さえておいてください。それで、お金ももらっていないんです。有志の集まりです。というところでこういう活動をまち協がしているっていうのは奇跡に近いということを念頭においていただいてからのスタートになります。先ほどおっしゃられた同じことをしているんじゃないかなという目線っていうのもよく分かります。外から見れば、ダブって見えるんじゃないかなと思うんだけど、そもそもの目的が違うんです。まちづくり協議会は、地域コミュニティ、隣近所のおじちゃん、おばちゃんとのつながりを強くすることが目的なので、生涯学習が目的ではないんですね。そういう中で上がってきたまち協の事業というのは、地域から近いってことなんです。例えば、まち協でしめ縄づくり体験講座とかありますけど、地域の方から声が上がってからの活動になるので、それを外側から、まち協にしてもらったらいいかってっていうのは筋違いです。しめ縄づくりしているうちに地域の方が、「これも面白いからこっちしてみよう」と言えば、それになります。柔軟性をもって活動がどんどん変わっていきます。その点、生涯学習、公民館講座っていうのは、社会教育という一本の筋、目的がありますので、それに興味をもった人たちが集うというイメージになります。ですので、そもそも違うと思うのですが。

## ○市長

今の、しめ縄作りとか、市民から発動される好奇心とか、学習して学びたい意欲っていうのは高く評価していると思うんですよね。一方で、軽スポーツ講座、ポッチャ大会はまち協がやっているんですね。で、軽スポーツ教室ですけどこれは公民館がやっている。この辺も位置づけっていうのは、予算をもっているところともっていないところが、同じ事業のかたちになっているっていうのがどうなのかなあって思ったりもします。もっと融合すると一つの予算で効果が増大するんじゃないかなと思います。

## ○田中委員（教育委員）

目的をどこに置くかですね。

## ○市長

ポッチャも北部は中野小学校でやっています、北部地区体協でもやっています、地区の共催事業でもやっています、っていうと（重複しているので）、一緒にやると世代間交流できるんじゃないかなとか。ポッチャに例えればですね。

まち協がまちづくりの専門家集団に特化されていて、我々が入り込む隙がないんじゃないかとか、主体がまち協の事務員さん、役員さんで市民はお客さん

だっていう垣根ができていないんじゃないかな。どうやったら新しい会員が入るのかを考えたときに、こういった垣根があることが（集まらない）原因じゃないかなと勝手に考えたりもします。これが答えではないかもしれませんが。

#### ○田中委員（教育委員）

山田・館浦まち協に関して言えば、会員数は増えています。私が集落支援員になったときは30名でしたが、現在は70名までになりました。敷居が高いということは感じていましたので、今までの自治会の動きとか、イベントをするときには、PTAなどに「協力してください。」って強制的な感じもあったんですよ。確かに区民という位置づけなので、半強制的に「手伝って。」っていうのももちろんいいんでしょうが、まちづくり協議会は本当に有志の団体なので、当初の役員さんたちはやはり自治会の役員さんが多いんですよね。同じように地域の人たちに半強制的に「手伝いに行っって。」って声をかけてしまうんです。それを「やめてください。」って最初に私は言ったんです。お客さんとしてはいいんだけど、加勢を強制的にさせることはやめてください、って言いました。「住民の方から『何かお手伝いすることある？』って言うまで待ってください。」って言ってまち協の方から敷居をぐっと下げたんですね。ですから、敷居を高く感じてしまうっていうのであれば、それはまち協の内部の問題かもしれません。

#### ○市長

山田・館浦のまち協はすごく理想的だから他のところも聞いてみたいですね。三輪委員はいかがですか。

#### ○三輪委員（教育委員）

私も色々な話は聞きますけれども、やはりまち協と公民館の事業っていうのは、似ているようで違うというのがあるので・・・。

#### ○市長

似ていて、でも違って素敵だっていうならいいんですよね。似ている、でもなんで違うの？っていう戸惑いがあるから、一緒にやった方がいいんじゃないかっていう、その辺の兼ね合いですね。

#### ○三輪委員（教育委員）

平戸海が帰ってきたときも、平戸市ふれあいセンターで集まりがあったときも、まち協と公民館がうまく話し合いがなかなかなかったりして、(同じ) 紐差内で協力したらいいのになって思うんですけど、そこはまち協はまち協、公民館

は公民館でやり方があって、その中で合わさっていくっていうのは難しいのかなってその辺は感じました。

○赤木課長（生涯学習課）

先ほど市長がボッチャのことをおっしゃいましたが、それを例にとって言いますと、私たちは社会教育、生涯学習で手軽に楽しい軽スポーツを広げるということで各公民館で始めたところなんですけど、始める中で、人が集まってくる、北部ではこれで大会をやってみようとかいう話にも発展してきて、まち協が目指している地域の交流にも役立つので共催事業として公民館とまち協と一緒にやるっていう事業に進んだものです。それがまだ進んでいない地区ではまだ公民館だけでやっていますね。

○市長

少しずつ知れ渡っているということですかね。

○赤木課長（生涯学習課）

軽スポーツに関してはそういう感じですよ。他の事業も、そういったものを探しながら調整しているところです。

○教育長

確かに、様々な事業が入り混じっていますね。

○植野班長（企画課）

赤木課長に質問があるんですけど、この「まち協共催事業」というのは、各公民館とまち協が定例的に打ち合わせをしているって聞くんですが、その状況というのはどうですか。

○赤木課長（生涯学習課）

今、だいたい全地区定例的に協議を始めたところです。進んでいるところは年に5、6回してみたりですね。正直今まで全然やっていなかったところもありまして、今回協議をした方がいいということで指示をして始まりました。そうすれば、まち協が何をしているのかっていうことも分かりますし、一緒にした方がいいんじゃないかということも見えてきますので、整理を進めてできるだけ効果的な事業にしていきたいと考えているところです。

○市長

田平は公民館とまち協事務局は近いんですかね。

### ○赤木課長（生涯学習課）

まち協事務局は支所にあります。公民館は町民センターにあります。

### ○市長

では、ちょっと離れていますね。

### ○赤木課長（生涯学習課）

田平の場合は、1まち協に、1公民館。そうじゃないところもありまして、やりやすさとか、良い点、悪い点あります。

### ○教育長

田平は、小学校区といえども、昔の田平の仕組みをそのまま使っているのが非常にまとまりがいいんですね。

私は上大垣地区にいたんですけど、上大垣地区のボッチャ大会があったんですが、自治会でですね、ボッチャ大会をやりたかって言ったときに相談に乗ってくれたところは公民館だったんですね。だから、公民館が各自治会に手をまわしてくれたので大会ができた。まち協はまち協で独自にやっていますのでこの場合は公民館の方が各自治会には近かったですね。

私のイメージとしては、まち協は、よろず相談所のような地域の方の色々な困ったこととか、こうしてほしいっていう要望を聞いてそれを形にしていく、つないでくれるっていうのがまち協かなって思ったんですけど、段々とまち協自体が色々な事業を始めているので、そこら辺が分かりにくくなってきたのかなあって思っています。

### ○市長

まち協を作るときの考え方は、平戸市全体が連邦制、合衆国のような、昔の「ムラ」がそこに出現していて、そこには村長もいない、議会もない、皆で話し合っただけというムラ社会があって、それぞれが自治的な活動がある。そこに、連邦制度である行政が費用とかノウハウを含めた形でコミットしていったら化学反応を起こしながら「住んでよかった。」ってなればいいなあと思っているんですね。ですからある意味民生員さんも、法務省から任命されました、っていう霞が関からじゃなくて、まち協の役員に民生員さんがいるっていう形でいくと、お互いの悩みとか、一人できついなっていうときに、「じゃあこうしようか。」って相互補完性ができてくるんじゃないかなって期待があったんですよ。公民館の建物の中で独立するんじゃないで、まち協の枠組みのなかで、あれもしてこれもして「集おうよ。」という形になるといいなと思っていました。これは私の考えなので押し付けるつもりはありません。

○野口部長（総務部）

でも、徐々にその連携はそうなっているのは事実ですよ。

○市長

幼児教育に携わった山村委員さんはいかがですか。

○山村委員（教育委員）

幼児教育ではないですけど、日ごろ感じていたのは、「公民館活動で〇〇しますよ、まち協で〇〇しますよ。」とあって似たような活動が紹介されてくるんですね。市長も言われているように、まち協と関わりがないものだから、一緒にすればいいのになあと思うような活動が確かに多いように感じましたね。最近はいぶ整理されているようですけど最初のころはありました。一緒にした方が効率的だし、そういう活動するときにやっぱり動員がかかるじゃないですか。集めるのも大変だなと。せつかく活動するんだったら、より多くの人に参加できるように住み分けとか、整理をして分担したらいいんじゃないかなと思います。目的の話も出たので、そうとばかりは言えないのかもしれませんが。

○市長

例えば、公民館職員が、貸館業務に専念して、ソフトをまち協がするのはどうですか。おかしいですかね。

○田中委員（教育委員）

そうですね、それこそ、近所のおじちゃん、おばちゃんにそれ（ソフト事業）をやらせるんですか。

○市長

公民館が、強制的に「何をやりましょう、これをやりましょう。」って言うのをやめて、やりたいことに場所を提供する。

○田中委員（教育委員）

逆ならいいのかなと思います。公民館のこういう講座があって、「ちょっとこういうのしてみたいんだけど。」って住民から問い合わせがあったときに、「〇〇公民館はこういう講座しているからいかがですか？」っていう案内をまち協がするのならば分かります。

○市長

なるほど、そうですね。講座するのにもお金がかかりますからね。

### ○山村委員（教育委員）

講座するのもまち協でというのは、専門家もいないし、なかなか難しいでしょうね。

### ○田中委員（教育委員）

本当に、素人なんですよね。そこは分かってもらいたい。

### ○教育長

私は二つほど提案します。一つは、今の田中委員さんが言われたんですけど、地域社会には結構退職してから余暇を楽しんでいるというか、（時間があって）困っている人がたくさんいる。自分の趣味を誰かと分かち合いたいと思っているんだけど、そこら辺がうまく合わない。公民館がそこをマッチングして、同好の志を募って、それが学習につながればいいんじゃないか。生涯学習の典型的なものになるんじゃないか。公民館がマッチング機能を担うというのが一つ。

二つ目は、出前講座というものがありますけど、これはちょっと興味がないよねっていう講座がたくさんある。講座も広く市民が「こんな講座をやってほしい、こんな講座をやってくれれば、行きたいよ。」っていうのを募って、毎年いくつかをやり続けて、生き残った分を残していけば、出前講座も人が集って長く続くようなものになっていくのかなと思います。特に、行政側からの出前講座なんてあまり要請はないんでしょう？

### ○植野班長（企画課）

世界遺産とか、文化交流課の時はありましたね。

### ○教育長

興味のあるものをブラッシュアップしていかないと、それぞれの出前講座も、そのままの「表」でしかないようになっている。

### ○田中委員（教育委員）

今の教育長のお話の中で、地域からの声を拾い上げるのがまちづくり協議会と申していただければ、上手に役割分担ができるのではないかと思います。

### ○市長

なるほど分かりました。

### ○植野班長（企画課）

市長があいさつされたときに、「コラボが大切」って言われたんですけど、コラボって異質なものの組み合わせなので、なんとなく、「社会教育、生涯学習の

推進」と目的があったら、お互い公民館、まち協がその目的に沿っていけばいいのかなと思います。その時に、全く同じようなことをやるのはしない方がいいので調整した方がいいかなと思いますので、定期的に意見交換をしながら徐々にブラッシュアップしていくというのがいいんじゃないかなと思います。

#### ○市長

回を重ねれば自然とそうなりますよね。

#### ○植野班長（企画課）

なかなか、線引きをしてしまうと逆に上手くいかないのかもしれない。

#### ○市長

そうですね、「それはそっちがするんじゃない？」って押し付けあうことになるからね。一緒にやっていくことで自然と収斂していくと。それぞれの担当が受け持つ一つの大会とかステージづくりは意味があるってことですね。

#### ○植野班長（企画課）

市長が行かれたまち協の大会と公民館の大会は・・・

#### ○市長

似たようなものだけど、意味があるということですかね。

#### ○教育長

具体的にどういう方向でもっていけばいいのか。

#### ○市長

この資料はよくできていると思っていて、今我々がやっている事業とか、個人の悩みとか立ち位置はどこなのかというポイントを置いてみて、「こっちに流れていけばいいよね。」「この辺に行けば理想的な町かな。」ということが見えてくる一つのチャート図になっていますね。

#### ○三輪委員（教育委員）

地元の婦人会が今、どんどんなくなっていっています。昔は地域に婦人会があって、地域を支えていたのが今はなくなってしまっているの、それをまち協が地元を支える、そういうこともあるのかなと。婦人会も上から言われるから「いやだ、やりたくない。」って辞めていってしまっている。でも、ダンスが好きな人は集まってそれをやり続けたりしているところもある。好きなものだった

らやり続けていくことができる。今、婦人会がなくなったことで大変な面は出てきているなどは感じるんですけど、それをやりなさいとは言えないし。

### ○市長

人口が多かったときは、婦人会、青年会、壮年会、があって、各世代属性が似た人の集まりがあったんですね。でも、人口が少なくなって、それも難しくなって、縦のつながりしかない。逆にそっちの方が面白かったりもするし。だから行政側が、「〇〇するから集まれ。」で強制的にいうのではなく、面白いことがあって「この指とまれ」方式がいいのかなと思います。

### ○山村委員（教育委員）

ちなみに、公民館同士の情報交換というのはしているんですか？

### ○赤木課長（生涯学習課）

今のところ、それぞれの公民館が、管内のまち協とそれぞれ定期的にやっています。

### ○山村委員（教育委員）

他のまち協がどういうことをやっているのかとか、共有できているのかなと思いまして。

### ○植野班長（企画課）

それはこちらでやっています。

### ○山村委員（教育委員）

そういう情報共有が進めば、まち協がやった方がいいという活動が見えてくるのかなと思います。

### ○市長

田中委員が言ったように、ネタ探しとか、種を見つけるのがまち協。そこを公民館が上げたり探したり、くっつけたりして収斂していくってことですね。今、頭の中のごちゃごちゃ感がすっきりしました。

ただ、この先、行く先が人口減少社会というときに、縦割りとか壁がまだあるとするならば、逆にそれは問題かなと思いますので、まち協から公民館に提案する、公民館からまち協に協力をお願いをするっていうつながりを持っておかないと。「それは公民館活動じゃありませんよ。」とならないようにしたい。そこは大事ですよ。

○教育長

確かに、線を決めるとそうなりますね。曖昧なところは残してもいいのかもしれませんが。

○市長

そうですね。

ところで、社会教育委員さんとはどういう活動をしていますか。

○赤木課長（生涯学習課）

年度当初に、私たちの取組みについてご意見をいただいています。

○市長

公民館活動についての議論をする、ご意見を伺うということ？その人たちはまち協には出入りしないんですか。

○赤木課長（生涯学習課）

出入りする人もいます。

○市長

性差別するわけではないけど、男性は肩書で動くところがありますよね、「自分はそれには入ってないから（行かない）。」みたいなね。女性はそうでもない。

○田中委員（教育委員）

そうですね、興味で動くところがあるかもしれません。（性差は）今は若い人たちはそうでもなくなってきているのかもしれませんが。

○市長

市の職員も、色々な活動をしていますよね、剣道とか空手の指導などですね。まち協に関わったりもしているのでしょうか。

○永田課長（教育総務課）

私は地域部会に入っています。獅子地区は「がんばろう会」というのがありますね。

○市長

他に何か、気づきがあれば教えてください。

## ○教育長

先ほどの話で、線引きっていうことがありましたけど、まち協については、住民に密着した地域のイベントするにはちょうどいい組織だなとは思いました。細かいところに手が届いてですね。もちつき大会とかそういうことをするのはいいのかな。公民館については、先ほど言った目的があって、「一生学び続けることができる」というのがあって、そこにもっていければ、似たような活動でも最終的には区別ができるのかなと思います。ただし、公民館活動自体、今低調なのでそこを何とかしたい。

## ○市長

逆に、まち協発生のプロジェクトというのが公民館に伝わっていくのもいいと思いますよ。例えば、戦争遺構について研究したら、私たちの期待以上の大きな盛り上がりと成果が出てきて、戦争遺構連携プロジェクトみたいなことができるんじゃないかとなったときに、行政も何かやってよとなるんじゃないかなとも思いますし。予算がない中でやっているものがありますしね。

## ○田中委員（教育委員）

近年、近代遺産に注目されているので、私は今度、九州・山口地方で発表してきましたんですが、戦後80年ということで、他からも講演の依頼が来ております。そういうことで、平戸市（行政）に問い合わせが来た時に、「ちょっとそれは、分かりません。」というのはどうなのかなと思います。平戸市に問い合わせがくるケースはこれから増えると思いますよ。そういったときに専門家がいないので（分かりません）、って言うのは平戸市民として悲しいし、プライドも持って欲しいなと思うので、そこは共有したいなと思っています。私が持っている情報はオープンにしたいので、今度公民館大会でお話させていただく機会があります。15分しかなくて足りない。もっと定期的にお話できる機会が欲しいです。この話は平戸市民のものと思っていますので、どんどん皆さんに知ってほしいんですよ。それで、当時の記憶を持った人の声も集まる。そういう機能を高めていきたいと思っています。

## ○市長

田中さんがおっしゃったように、まち協に種がある、これを公民館がすくい上げて、培養したり育てたりという形で支援するというふうになればいい。

## ○田中委員（教育委員）

生月の公民館が、地域のお年寄りに向けた講座があって、昨年そこに呼んでいただいたんで、お話する機会は作っていただいたんだけど、それを各場所で行いたいんですよ。今度、中南部の方に向けてもお話する予定です。それぞれの地域

の方に、自分の地域を振り返る時間を持ってほしいし、高齢の方の記憶を呼び起こすような機会にもしたいと思っています。それで平戸市の情報がより蓄積されて、それを平戸市の職員のみなさんにも共有してほしいと思っています。

#### ○赤木課長（生涯学習課）

各公民館、それぞれの地域にそれぞれの情報があると思いますので、私も全体を把握したいなと思っていますので、ぜひシリーズ化をお願いしたい。

#### ○田中委員（教育委員）

先日、大島の方ではライブ配信していただいたんですけど、そういう風に、私が現場に話にあって、それを平戸市民の方が（オンラインで）見られる、っていうスタンスがいいのかなって思います。

#### ○市長

公民館長の会議は年に1回あるんですか。

#### ○赤木課長（生涯学習課）

各公民館が会する、職員の打ち合わせ会が年に4回ありまして、その中で別途館長だけで集まって行う会議があります。

#### ○市長

公民館に従事する人たちが、今のまち協の動きに敏感になってもらわないといけない。よき相談相手になるんだっていう自覚がないといけないと思います。私の中では、今日の問題提起によって、関わり方を濃くしていくことで高め合う仕組みづくりが必要なんだという結論に至りました。そこはぜひ、公民館長に、このような事例も含めてお伝えいただきたい。その中で例えば、まち協が主軸になって、公民館を巻き込む場合、まち協には予算がない、逆に公民館活動の中でそれをテーマとして受け入れれば、そこで支えていけるかもしれません。少なくとも外部からの問い合わせに対して、まち協のことなので誰も分かりませんというのはいけませんので、相互に補完し合っていければと思っています。

#### ○教育長

個人的には、平戸街道を勉強したいなと思っていて、つい先日テレビで「日本百低山」というのがあっていました。その中で、中野の神社から安満岳に登るところが街道になっていて、そこにある石で殿様が休んだんだよ、と言っていました。そういう話も聞くと、知りたいな、って思っている人もたくさんいるので形にすることができればね、と思っています。

### ○野口部長（総務部）

職員も今、少ない人数でやっているところもあります。平戸街道だったら文化交流課が中心になって、企画を立てて声をかけていかないと。声のかけ方は公民館を通じてでもいいです。まち協さんに声をかけるのも大事です。新しい取り組みをどんどんしていかないと道が開けないですね。

### ○市長

今日は教育委員会とまち協の話だったので、総合教育会議ではある程度赤木課長の生涯学習課のところにミッションが寄っている気がしますけど、一方ではせっかく市長部局が入って会議をしているので、文化観光商工部の各セッションもアンテナを張って、まち協の提案を受けるような体制をとらないといけないと思っています。自分があちこちで自慢しているのは、平戸の凄さは殿様が変わらなかったこと、松浦家という同じ家系がずっとつながっているから、宝物が残されている。地震とか大規模災害がなくて、街並みが残されている。空襲など戦争の犠牲がなかったということもあって、たぐいまれな、奇跡的な完全冷凍保存庫なんですね。だからこそたくさん宝物が出てきて、この前のかくれキリシタンの信仰用具の件もそうなんです。それが学習の素材にもなる、文化財としての価値にもなる、観光としての交流のきっかけにもなる、というので一つの素材が多岐に跨るわけですから、それを市民の人が知らないというのはもったいない。そこはまた、色々な人の手を借りて共有することができればいいなと思っています。

今日の総合教育会議としては、知りたい、学びたい、参加したい、という好奇心を垣根なく吸い込んでいきましょう、受け入れていきましょうということに結論が出たということで、よろしいでしょうか。

### ○野口部長（総務部）

それでは、閉めさせていただいてよろしいでしょうか。皆さん、大変お疲れ様でした。本年度の総合教育会議を終了いたします。今後どうぞよろしくお願いいたします。